

第25期 中間株主通信

COSMO BIO Co., LTD.

2007 Interim Business Report 2007.1.1-2007.6.30

Top Interview

トップインタビュー

バイオ関連専門商社トップの
豊富な品揃えときめ細かな
情報提供を通じ、
ライフサイエンス研究の発展に
貢献していきます。



代表取締役社長

原田正憲

**品揃えの豊富さときめ細かな情報提供を通じて
市場の拡大と業績の向上を図っていきます。**

当中間期(2007年1月~6月)におけるバイオ研究関連の動向は、当初の見通しより厳しいものになりました。要因の一つは、昨年、世間を騒がせた大学における研究費の不正流用の影響が尾を引き、大学等の公的予算による基礎研究関連の購買活動が弱含みで推移したことです。

業界における販売競争は激化するとともに、一部では価格競争も激しさを増してきている現状にあります。下期についても、バイオ関連研究市場は拡大基調とはいえ、引き続き弱含みに推移し、競争はさらに激化していくものと考えております。

こうした市場環境の中で、当社は日本のバイオ専門商社としての強みを活かして、官と民、双方の現場の研究ニーズに即応できるような品揃えの豊富さ、きめ細かな情報提供サービスという量・質の両面の充実を図りながら、業績を向上させていきたいと考えております。

**国内外の仕入先の開拓、関係強化を通じて
日々高度化するユーザーニーズに対応していきます。**

当社の最大の強みは、国内外の仕入先とのネットワークを通じた品揃えの豊富さにあります。とはいえ、仕入先との関係については近年、大きな変化が表れております。当社の仕入先は海外、特に米国の企業が大半を占めますが、その米国ではM&A(合併、買収)が活発化してきております。仕入先が日本の現地法人や日本での独占販売会社を持つ企業に買収された場合には、当社の取扱商品の販売停止や仕入価格上昇を招いてしまいます。

そこで当社では、仕入先とエンドユーザー(研究者)の結節

点に位置し両者のニーズを熟知している強みを活かし、新たな仕入先の開拓はもちろん、潜在ニーズの高い製品を持つメーカーを発掘し育成する等の開発活動を強化しております。これは、仕入先1社ごとの依存度を下げてリスクを分散し、業績全体への影響を低減することにも貢献します。この施策の結果、当中間期におきましては、新たに27社の仕入先を獲得し、575社・約39万点の商品を取り扱うに至りました。これは、業界随一のネットワーク及び商品数等と自負しております。

また、M&Aや資本提携などを通じて、仕入先との関係を強化するといった施策も重点的に展開してまいりました。今後も引き続き、こうした仕入先開拓・ネットワーク強化に力を入れていきたいと考えております。

民間企業の研究活動をターゲットに 市場の拡大を図っていきます。

製薬会社・食品メーカー等の民間企業における研究開発活動は堅調に推移しているものの、その研究対象は基礎研究から、より製品化段階に近い応用研究・開発研究へと重点が移ってきております。

そこで、当社では、第二の事業の柱とするべく、これらの民間企業で活発化し始めているバイオ関連の応用研究・開発研究分野での受託研究事業の基盤づくりに力を入れております。

その一環として、2006年には抗体作成で独自技術を持つ株式会社バイオマトリックス研究所の第三者割当増資引き受け、脂肪細胞等の初代培養細胞の製造や受託解析を行う株式会社プライマリーセルの買収を行ったほか、2007年1月には再生医療事業及び光学装置事業に取り組むコアフロント株式会社への出資を行いました。

こうした一連の取り組みは、今後の市場拡大を期待した、中

長期的な見通しでの新たな収益源づくりを目的にしているものですが、株式会社プライマリーセルではラットの胚^{さい}ベータ細胞の新規開発に成功し、その販売にユーザーからも大きな期待がかかっております。また、株式会社バイオマトリックスとコアフロント株式会社についても、当社主力の抗体及び研究用機器・器材の充実に寄与しております。また、既存事業の付加価値アップやシナジー効果を発揮し始めております。

これらの成果をもとに今後は、既存事業のさらなる充実とともに、民間企業の応用研究や開発研究など、基礎研究の上になり立つ新規市場を積極的に開拓してまいります。

経営・財務体質の強化を図りながら 着実な成長をとげる足腰の強い企業を目指します。

経営面では、株主の皆様への安定した配当を実現する観点から、為替リスクの低減を課題としております。当中間期は1ドル115円程度を予想しておりましたが、実際には120円台の円安になり仕入価格上昇を招きました。引き続き、実需の範囲内で為替予約を行う等のリスク回避策を通じて、収益体質の強化に努めてまいります。

経営面でのもう一つの課題は、人材の確保及び育成です。当社のエンドユーザーはライフサイエンス分野では最先端の研究者であり、広範かつ高い学術レベルの提案やサポートを要求されます。株式公開企業として知名度を高めることやストック・オプション等のインセンティブを活用して、まずはバイオ研究等で実績のある優秀な人材の採用に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、当社の経営及び事業に対し、ますますのご理解とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

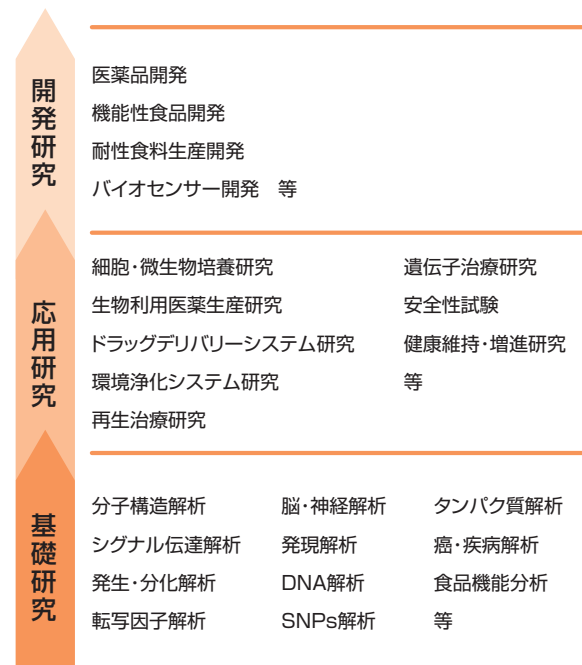
What We Do

当社について ～ライフサイエンスに貢献する信頼のバイオ専門商社～

事業領域

「基礎研究」を中心に幅広い領域を支援

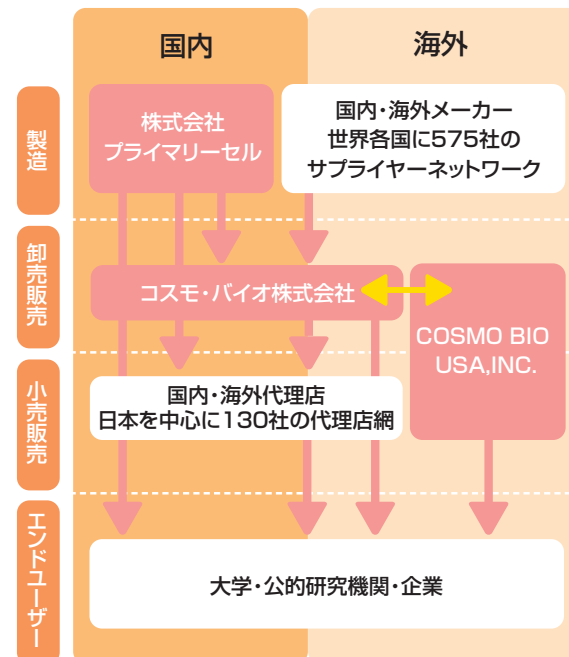
絶えず進歩を続けるバイオ分野において「バイオ研究支援」を事業領域としております。バイオ研究の流れは「基礎研究」から始まり、その成果を実用化するための「応用研究」、製品化に向けた「開発研究」の大きく3段階に分類されます。当社では世界中のメーカーから商品を仕入れ、「基礎研究」段階を中心に、幅広い領域を支援しております。



ビジネスモデル

代理店を通じ効率的な事業を展開

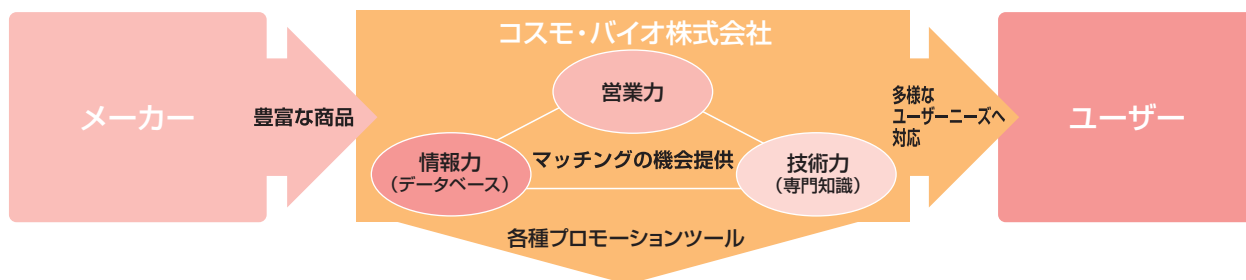
最先端のバイオ研究用試薬・機器・臨床検査薬の販売と情報サービスを行う専門商社です。代理店を通じ、エンドユーザーである研究者の専門性の高い多様なニーズにお応えしております。2006年12月に細胞の研究開発・製造を行う株式会社プライマリーセルを子会社化し、もう一つのグループ会社COSMO BIO USA, INC. と併せ、商品の開発・製造から販売までを一貫して行うことが可能となりました。



コスモ・バイオの強み

膨大な商品と多様なニーズのマッチング

高度な専門知識に基づいて整理された豊富な商品情報を、様々な媒体を介してお届けしております。これらのツールにより、ユーザーは研究動向に合った商品や情報を手にすることができます。



インターネット

インターネットホームページ (www.cosmobio.co.jp) では、39万件以上の全商品検索をはじめ、新商品情報や最新のトピックス等をご紹介しております。さらに、お客様のニーズに合わせたメールマガジンの配信も行っております。またIR情報には、開示資料や、証券情報、よくあるご質問等を掲載しており、随時更新しております。



カタログ類

当社では2万部以上のカタログを、日本国内の研究者に広く配布し、研究に必要な商品を簡単に見つけることができるようにしております。



セミナー

当社ではお客様のためのセミナーやトレーニングを行っております。また、販売代理店のスタッフを対象にしたセミナーを、春と秋に開催しております。



ニュース、チラシ類

新商品の紹介等をするコスモバイオニュース(年6回発行)を無料配布し、よりスピーディーでタイムリーな情報提供に努めております。また、注目される研究分野や商品群にスポットを当てた特集ニュース、チラシ類も年数回発行しております。



学会・展示会

分子生物学会、生化学会、免疫学会、農芸化学会等の学会のほか、海外やライフサイエンス関連の展示会に積極的に参加して商品とサービスのご紹介をしております。



コスモ・バイオ玉手箱

コスモ・バイオの公開講座応援団とは？

ライフサイエンスを、もっと身近に感じていただくためのきっかけづくりをお手伝いしております。

私たちコスモ・バイオは、「ライフサイエンスの進歩・発展に貢献する」ことを第一の会社理念に掲げ、人々に信頼される企業づくりを目指しております。様々な社会活動に積極的に参加していくことは、私たちの願いであり、使命でもあります。私たちは、この理念に基づき、大学や研究所などが実施する公開講座のお手伝いを通して、小中高生等、次の世代を担う“明日の科学者”に、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝

えたいと願っております。

コスモ・バイオが実施しておりますTools for School公開講座応援団プログラムでは、ライフサイエンス研究の将来に向けての長期的な取り組みをお手伝いするために、大学等が通常の授業プログラム以外に企画・主催する市民体験講座に、教材及び費用の一部をご提供しております。

これまでの公開講座応援団では、毎年、たくさんのご応募をいただいております。2007年度(第4回)は、下記の7団体を採択いたしました。今後も、コスモ・バイオは“明日の科学者”を育てる活動のお手伝いを続けてまいります。

- ・愛知がんセンター研究所分子腫瘍学部：「高校生のための実験・体験コース」
- ・宇都宮大学農学部 付属農場：宇都宮大学“豊かな学び”子供体験支援事業
「クローン牛づくりにチャレンジ」
- ・大分大学工学部応用科学科：「夏休み子供サイエンス2007」
- ・高知工業高等専門学校：「夏休み！おもしろ科学教室～高知高専出前授業in室戸」
- ・東京工業大学生命理工学部：「バイオの世界を探検してみよう」
- ・北海道大学 女性研究者支援室FresHU：「Be ambitious, Girls&Boys!
エルフィンと一緒に理科ピカッツ！～北大女子学生による理系応援キャラバン隊
@北広島～」
- ・和歌山工業高等専門学校物質工学科：「世界の化学・生物実験」



東京工業大学 生命理工学部での公開講座



和歌山工業高等専門学校での公開講座

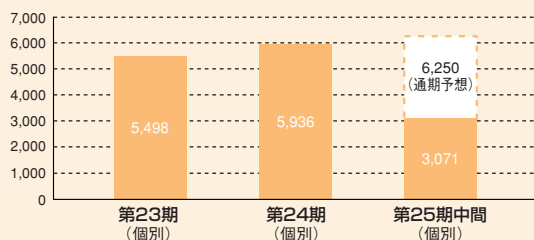
Business Overview

中間決算のポイント(個別)

事業の概況

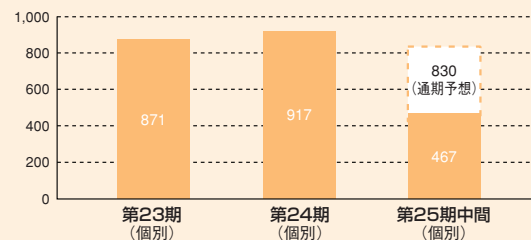
売上高

(単位:百万円)



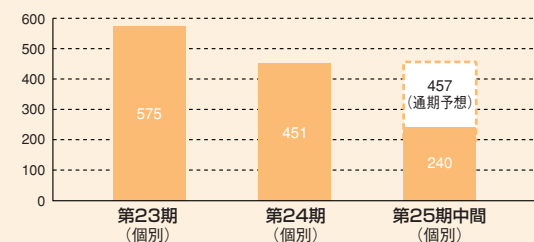
営業利益

(単位:百万円)



純利益

(単位:百万円)

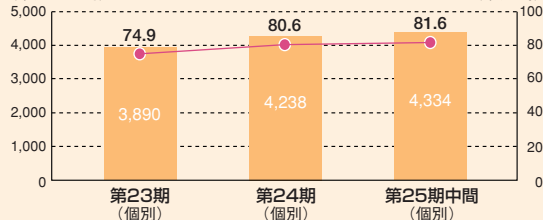


自己資本/自己資本比率

(単位:百万円)

● 自己資本比率

(単位:%)



当中間期におけるバイオ研究関連の動向は、当初見通しよりも厳しいものでありました。

昨年、一部大学で起きた研究費の不正流用の影響が残る中で、予算使用手続きの厳格化と予算執行時期の変化が見られ、大学を中心に公的予算による研究開発関連の購買活動は総じて弱い動きでありました。また、製薬企業を中心に研究領域の変化が見られ、業界における販売競争は激化しつつあり、一部

では価格競争も激しさを増してきております。

上記の環境下、当社は先端的な新規商品の開拓、プロモーション及び販売促進に努め、当中間期におきましては新たに27社の仕入先を獲得し、575社・約39万点の商品を取り扱うに至りました。しかしながら上記のとおり弱い市場環境下、当初の業績見通しを充分達成するに至らず、当中間売上高は3,071百万円となりました。

Financial Statements

中間財務諸表

※2006年12月25日に株式会社プライマリーセルを子会社化したため、当中間期より連結財務諸表を作成しております。

損益計算書

(単位:千円)

科目	期別	第25期中間(連結)	第25期中間(個別)	第24期中間(個別)
		(自2007年1月1日 至2007年6月30日)	(自2007年1月1日 至2007年6月30日)	(自2006年1月1日 至2006年6月30日)
【経常損益の部】				
営業損益の部				
売上高		3,107,713	3,071,429	3,052,121
営業費用		2,677,772	2,604,034	2,542,575
売上原価		1,863,875	1,846,644	1,711,090
販売費及び一般管理費		813,897	757,390	831,485
① 営業利益		429,941	467,395	509,546
営業外損益の部				
営業外収益		7,168	7,314	3,550
営業外費用		60,335	60,321	57,637
たな卸資産廃棄損		34,062	34,062	25,271
デリバティブ評価損		17,006	17,006	30,503
その他		9,267	9,253	1,861
経常利益		376,774	414,388	455,458
【特別損益の部】				
特別利益		4,220	4,188	3,478
特別損失		4,824	4,770	16
税金等調整前中間純利益		376,170	413,806	458,920
法人税、住民税及び事業税		179,846	179,538	173,557
法人税等調整額		△6,168	△6,175	21,503
中間純利益		202,492	240,443	263,858

貸借対照表

(単位:千円)

科目	期別	第25期中間(連結)	第25期中間(個別)	第24期中間(個別)
		(2007年6月30日現在)	(2007年6月30日現在)	(2006年6月30日現在)
【資産の部】				
流動資産				
現金及び預金		3,913,681	3,882,372	3,665,218
受取手形		459,790	453,820	632,543
売掛金		613,398	609,893	541,901
有価証券		1,190,268	1,174,306	1,220,455
商品		1,050,727	1,050,727	701,325
その他		481,720	481,720	473,828
その他		117,775	111,905	95,164
固定資産		1,361,942	1,426,584	1,341,115
有形固定資産		56,968	54,124	35,327
無形固定資産		411,513	16,741	20,729
投資その他の資産		893,461	1,355,718	1,285,058
投資有価証券		555,357	555,357	935,376
長期性預金		100,000	100,000	100,000
その他		238,104	700,361	249,682
② 資産合計		5,275,623	5,308,957	5,006,334
【負債の部】				
流動負債				
支払手形		784,422	780,688	796,455
買掛金		70,415	70,415	59,931
短期借入金		399,829	398,864	373,683
その他		20,000	20,000	20,000
その他		294,178	291,409	342,839
固定負債		194,778	193,895	189,571
退職給付引当金		123,278	122,395	115,301
役員退職慰労引当金		71,500	71,500	66,690
デリバティブ負債		—	—	7,580
負債合計		979,201	974,583	986,026
【純資産の部】				
純資産合計		4,296,422	4,334,374	4,020,307
③ 負債・純資産合計		5,275,623	5,308,957	5,006,334

① 営業利益

連結営業利益は429百万円、売上高営業利益率は13.8%となりました。その主因として、為替が当中間連結会計期間平均120円/ドルと円安傾向で推移したこと等により売上原価が上昇したことによるものです。販売費及び一般管理費につきましては、営業利益率の低下を見込み人件費をはじめ各種経費の引き締めにも努めました。

② 資産

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末(2006年12月末)に比べ8百万円増加して5,275百万円となりました。その主因として、売上債権(受取手形及び売掛金)が低水準となる時期のため、流動資産が115百万円減少して3,913百万円。連

用のための投資有価証券が前連結会計年度末に比べ150百万円増加したこと等により、固定資産が123百万円増加して1,361百万円となったことによるものであります。

③ 負債及び純資産

当中間連結会計期間の負債合計は、前連結会計年度末に比べ49百万円減少して979百万円となりました。これは主に、買掛債権(支払手形及び買掛金)が低水準となる時期のため37百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は、ストック・オプションによる新株予約権の行使により資本金及び資本準備金を合わせ6百万円増加したこと等により、4,296百万円となりました。

株主資本等変動計算書(連結)

第25期中間(自2007年1月1日 至2007年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
2006年12月31日残高	913,925	1,217,485	2,106,795	4,238,205	166	4,238,371
中間連結会計期間中の変動額						
新株の発行	2,995	2,995		5,990		5,990
剰余金の配当			△150,560	△150,560		△150,560
中間純利益			202,492	202,492		202,492
株主資本以外の項目の中間 連結会計期間中の変動額(純額)					129	129
中間連結会計期間中の変動額合計	2,995	2,995	51,932	57,922	129	58,051
2007年6月30日残高	916,920	1,220,480	2,158,727	4,296,127	295	4,296,422

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	期 別	第25期中間(連結)	第24期中間(個別)
		(自 2007年 1月 1日 至 2007年 6月 30日)	(自 2006年 1月 1日 至 2006年 6月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		343,247	87,826
投資活動によるキャッシュ・フロー		△82,861	55,694
財務活動によるキャッシュ・フロー		△144,570	△211,871
現金及び現金同等物に係る換算差額		4,057	2,453
現金及び現金同等物の増加額		119,873	△65,896
現金及び現金同等物の期首残高		539,917	698,439
現金及び現金同等物の中間期末残高		659,790	632,543

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは343百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益による収入376百万円及び売上債権による収入153百万円等の一方で、法人税等の支払126百万円等の支出があったこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは82百万円の支出となりました。これは主に、有価証券の償還により300百万円の収入があったこと及び現先による運用が終了し短期貸付金を回収したことにより99百万円の収入があったこと等の一方で、当社は安全性の高い有価証券による運用を行っており、有価証券の取得による支出100百万円及び投資有価証券の取得による支出359百万円となったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは144百万円の支出となりました。これはストック・オプションの権利行使による収入5百万円に対し、配当金の支払による支出が150百万円となったことによるものであります。

上記の結果、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は659百万円となりました。

Topics

トピックス

Lake Placid Biologicals社と日本国内における独占販売代理店契約の締結

Lake Placid Biologicals社 (LP Bio社) はクロマチンや核の生態を研究するための高品質な試薬を提供する会社です。LP Bio社はクロマチン、細胞シグナリング分野での研究開発経験が豊富な研究員で構成され、優れた技術力で高品質な製品を開発、現在はChIPアッセイ用キットやクロマチン研究用抗体を含め、約160種類の製品を販売しております。

製品は全て自社で製造し、製品の反応性や使用用途などを全て試験し、性能を把握した製品を販売しております。

研究に大切なのは再現性のあるデータです。このために、LP Bio社は高品質で安定した製品の製造に努めております。

取り扱い商品:

クロマチン研究用抗体、キット



ホームページリニューアル

情報量が多いコスモ・バイオのホームページを、使いやすくシンプルなインターフェイスとレイアウトデザインにリニューアルいたしました。機能性を保持しつつ、体温が感じられるような、温かみのあるデザインに仕上げました。サイトマップやサイト内検索を新たに加え、お客様がお探しの商品や情報に、速く着実にたどりつけるように配慮しました。さらに投資家様向け情報ページには、新たにプレスリリースのページを加えるなど、正確な情報を素早く皆様にお伝えできるように、コンテンツを充実させるとともに利便性の向上を目指しました。皆様にはコスモ・バイオのサイトを“道具”として活用していただきたいと思います。



Corporate Data & Stock Information

会社概要/株式の状況

(2007年6月30日現在)

会社概要

商 号 コスモ・バイオ株式会社

設立年月日 1983年8月25日

所在地 〒135-0016
東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル

資本金 916百万円

事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
臨床検査薬の輸出入及び販売

従業員数 72名

役員 代表取締役社長 …………… 原 田 正 憲
専務取締役 …………… 高 木 勇 次
取締役 …………… 田 中 知
取締役 …………… 鈴 木 忠
取締役 …………… 笠 松 敏 明
取締役 …………… 櫻 井 治 久
常勤監査役 …………… 松 本 眞 和
監査役 …………… 佐 々 木 治 雄
監査役 …………… 堀 米 泰 彦

株式の状況

発行可能株式総数 …………… 183,616株

発行済株式の総数 …………… 60,400株

株主数 …………… 2,734名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	11,520	19.1
コスモ・バイオ従業員持株会	6,606	10.9
コスモ石油株式会社	5,760	9.5
福 井 朗	4,360	7.2
原 田 正 憲	2,200	3.6
柴 沼 篤 夫	1,480	2.5
高 木 勇 次	1,480	2.5
田 中 知	1,480	2.5
鈴 木 忠	1,480	2.5
松 本 眞 和	1,480	2.5

IRからのお知らせ

株主の皆様にご理解いただきたく、当社ホームページ内【IR情報】にて、IR関連情報を掲載しております。

コスモ・バイオ

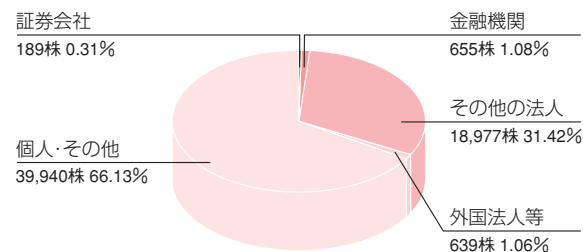
検索

コンテンツのご紹介

- ・IR最新情報
- ・社長メッセージ
- ・事業の概要
- ・プレスリリース
- ・公表資料
- ・IRカレンダー
- ・電子公告
- ・株式情報
- ・財務ハイライト
- ・よくあるご質問
- ・IRお問い合わせ
- ・免責事項

Yahoo!、Googleをはじめ、各ポータルサイトの検索窓に「コスモ・バイオ」と入力いただき、検索ボタンをクリックしてください。
<http://www.cosmobio.co.jp/>

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当金 12月31日 (中間配当金の支払いを行うときは毎年6月30日)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.cosmobio.co.jp/

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電 話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
Tel.03-5632-9600 Fax.03-5632-9613

株主の皆様のお声を聞かせてください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3386

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、**いいかぶ**と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本誌がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年11月30日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com



古紙/UV配合率100%再生紙を使用し、大豆油を利用したソインクを使用しています。